

FRB、インフレ抑制に向け0.75%利上げ

ポイント① 27年ぶりに0.75%の利上げ

FRB（米連邦準備制度理事会）は、6月14日-15日に開催されたFOMC（米連邦公開市場委員会）にて、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を、1.50～1.75%に引き上げることを決定しました。0.75%の利上げは1994年11月以来、27年7ヵ月ぶりの大幅利上げとなりました。今回発表されたFOMCメンバーによる2022年末の政策金利見通し（中央値）は3月会合時点の1.9%から3.4%まで引き上げられており、FRBが金融引き締めに向けて強い姿勢を示したと考えられます。

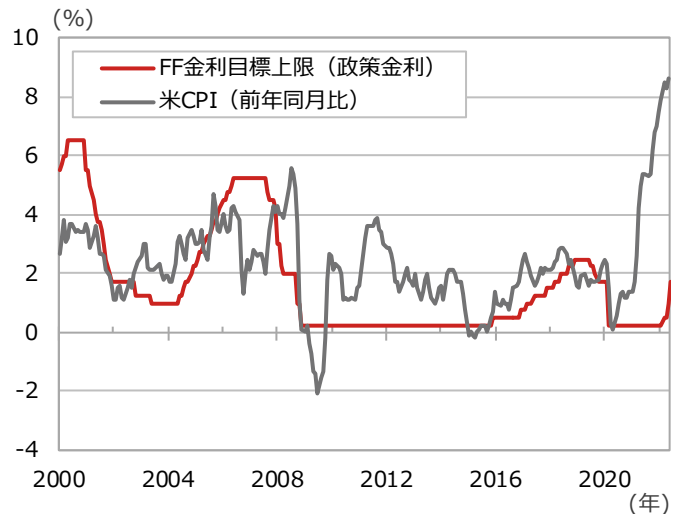
ポイント② インフレは依然として高水準

米国では高水準のインフレが続いています。5月の米CPI（消費者物価指数）は伸びが減速すると市場予想に反して加速しました。FRBは更なるインフレの高進を抑えるべく、今回の強力な利上げに踏み切りました。また、今後の経済指標に応じて機敏に対応していく姿勢も示し、次回の7月会合でも0.5%もしくは0.75%の追加利上げが決定される可能性が高いことも示唆しました。

ポイント③ 議長会見後、米国株は上昇

パウエル議長会見では、今回の大幅な利上げは異例であり、この利上げ幅が通常になるとは見込んでいないことが明らかになりました。市場では、大幅な利上げが継続される懸念が和らぎ、0.75%の利上げも概ね織り込まれていたこと等から、6月15日の米国株は前日比で上昇、米10年債利回りは低下しました。FRBは量的引き締めと併せて利上げを行なう方針であり、インフレ抑制にむけた強い姿勢を示しました。同時に、景気後退の回避も求められる中、難しい舵取りが迫られます。

米国の政策金利と米CPIの推移



期間：2000年1月末～2022年6月15日、月次
(CPIは2000年1月～2022年5月、月次)
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米10年債利回り
S&P500種株価指数の推移



期間：2021年1月1日～2022年6月15日、日次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント	6月17日	米鉱工業生産指数 (5月)
	6月30日	米個人所得、個人消費支出、 個人消費支出デフレーター (5月)